



第1志望以外へ進学 励ますには

子どもが残念ながら、志望校に落ちてしまいました。本人が行きたがっていた学校で合格を目指して勉強も頑張ってきただけに、落ち込んでいます。滑り止めの学校に進学しますが、挫折感を抱えたまま新生活を送ってほしくはありません。自分に自信を持ち、胸を張って高校に通ってほしいと思います。親としては何とか励ましたいと考えていますが、励ますと逆に心の傷を刺激するような気がします。どう声掛けをすればいいのか、どう接していいかわかりません。

先生、教えて！

子育て・教育相談コーナー



今回は志望校に不合格となった子どもに、保護者はどんな接し方やアドバイスをすればいいのかQ&A形式にまとめました。

●回答してくれた人

畠山 明さん

はたけやま・あきり 気仙沼市出身。東北大学院修了。教員を経て、1996年から個別教室のアップル・家庭教師のアップル(仙台市)代表などを務める。



まず言いたいのは、志望校を目指して努力を重ねてきたことは決して無駄にならないということ。努力して成長した事実を認めて、お子さんに共感してあげてください。そして第1志望ではない学校への進学を、チャンスに変えていきましょう。

これまで多くの受験生と保護者を見てきましたが、子どもに「第1志望以外、行きたくない」と思わせてしまうのは、実は保護者、ということもあるようです。第1志望に落ちて子ども以上にショックを受ける保護者もいますが、それではただでさえがっかりしている子どもがますます「自分は駄目なんだ」と思ってしまいます。

高校、大学、就職といった進

新生活前向きに捉えて

路を、全て第1志望通り進めるのはほんの一握り。頑張った分だけ、望みがかなわずつらい思いが出るのは仕方ないのですが、保護者は本人の思いを聞いて寄り添ってあげてください。

第1志望ではない春から通う学校の特色や良さを、肯定的に見てほしいです。例えば私立高校なら、大学推薦に強い学校が少なくありません。新たな学校生活でコツコツ努力して憧れる大学の推薦を狙うなど、最初は第2志望だった進学先が、大学受験に向けた大きなチャンスにつながるかもしれません。

他にも部活動や環境などその学校の良さを前向きに捉えることは、勉強以外の視野を広げることにもなるはずです。

このコーナーは保護者からの子育てや教育についての相談を募集しています。元教員や学習塾経営者、小児科医、精神科医らが、紙面上で悩みにお答えします。メールまたは郵送で相談をお寄せください。

▷記入事項 氏名、年齢、職業、住所、家族構成、電話番号、メールアドレス

▷宛先 〒980-8660 河北新報社子ども新聞係。メールアドレス kyopro@po.kahoku.co.jp